

浜田港運 (浜田市)

◆4◆ 「港と共に」

【会社概要】

▽所在地 浜田市長浜町1785-7
 ▽営業種目 港湾荷役、通関業など
 ▽代表者 山本 洋治
 ▽従業員数 44人
 ▽電話番号 0855(27)0072



初めての研修旅行で訪れた広島県呉市の大和ミュージアムでの記念写真

PKS輸入など新たな展開 荷物増大を見据え自社倉庫

進も図られたことから、外材の輸入は減少したものの、内地材の取り扱いが増加し、現在は輸入材と内地材の比率が7対3になっている。
 さらに27年は、江津市に完成した国内最大級のバイオマス発電所の燃料に使うPKSが初輸入された。従来の石炭荷役の機械、建機、装置をそのまま使用できる利点があり、今後も輸入量の増加が見込まれる有望品目だ。

社業の近代化を推進

この間、平成25年5月は日本通運(日通)島根統括松江支店長だった山本洋治が第4代社長に就任し、第3代の宮下義重は会長に就いた。
 山本は、松江工業高等専門学校(高専)の6期生で、東京の日通本社に就職した。松江支店内浜田支店長、中国ブロック統括広島支店部長などを務め、23年からの松江支店長

近年は国際RORO船の就航、バイオマス発電用のPKS(やし殻バイオマス燃料)輸入など新たな展開があり、今後はドライバー不足のトラック輸送に代わる船輸送への回帰が予測される。福井埠頭にはこの10月、荷物の増大に対応して新たな自社倉庫が完成したばかりで、来年の創業90周年を次へのステップに、地域と共に力強く歩もうとしている。



会議室に掲げられた社旗と企業理念、経営方針

時代は島根県トラック協会、県道路利用者会議、県倉庫協会の各会長も務めた。
 山本は就任早々、旧態依然としていた社業の近代化に着手。「顧客ニーズに対応した高品質のサービス」などの企業理念、「継続した適正な利益の創出」といった経営方針を策定し、海を象徴する丸い青地に港の文字を入れた社旗と記章を定め、ホームページも更新した。
 福利厚生では25年に初めての社員研修旅行を行い、年に2回の慰労会も開くなど、全社員がモチベーションを高めて同じベクトルで業務を推進している。
 また、増加する内国貨物を迅速で安全に一時保管するため、福井埠頭の立ち入りを制限するフェンスで囲ったソーラス区域に新たなシンボルとなる延べ床面積が約2千平方メートルの自社倉庫を建設し、近く、竣工式を行う。

年商10億円も視野に

一方、港の周辺では平成29年度完成予定の「臨港道路福井4号線」が山陰自動車道に直結するため、利便性が飛躍的に向上する。福井4号埠頭では、韓国からの大型コンテナ船の入港に対応するため、

中古車輸出の 荷役請け負う

ロシアに向けて故障の少ない国産中古車が、木材を降ろした帰り荷として輸出されるようになると、効率よく輸送できるRORO船の寄港が熱望され、平成18年にロシアの船会社によるチャーター船が初入港した。浜田港運はこの荷役を受け、先進地の中関(山口県)、伏木富山港(富山県)などで現場研修した従業員が初仕事として152台を次々



平成29年度の供用開始を目指して工事が進む福井埠頭への取り付け道路



RORO船に積み込まれるロシア向け中古車



ロシアのサンクトペテルブルグに輸出される石州瓦



福井埠頭に完成した自社倉庫

県が埠頭の掘削工事を進めて完成させた。来年度までには作業能力の高いコンテナ貨物専用荷役機械の大型ガントリークレーンも設置する。
 物流は経済の「血液」だけに、山陰自動車道など高規格道路の整備は企業誘致を促し、それが雇用の創出、空き地利用や関連施設の設定など誰もが使いやすい商港の整備につながって物流を促進する。さらには地域の活性化をもたらす。

輸出では、官民で組織するロシア貿易発展プロジェクトが中心となり、ウラジオストクからモスクワ、サンクトペテルブルグへの鉄道による商品輸送の開拓も見据える。モンゴルへは建材輸送のトライア

ルで、浜田港運が梱包方法などについて実績を積んでおり、セールズツールとして生かす。
 長距離トラック運転手の不足など環境が悪化している陸上貨物輸送から、海上大量輸送への対応を検討する必要がある。圏域全体の商機を逸さないためにもタイムリーな行政のバックアップが欠かせない。浜田港と周辺環境整備により、山本が「原木、燃料などが安定的に輸入されており、来年度にはガントリークレーンも整備され、明るい未来が展望される」と語るように、遠くない将来には年商10億円を視野に入れる。

(敬称略)
 ―おわり―
 (榊原正之)